

「2014年、新たな出発です！」

(特別寄稿)

ものづくり技術経営学専攻(MOT) 一期生 伊藤 雄三 氏



有機ELの試作品を手に、新年の抱負を語る伊藤雄三さん

新年あけましておめでとございませう。Y-MOTネットワークメンバー、技術経営学専攻科(MOT)の教職員、日頃ご支援を頂いている地域企業、関係官庁の皆さまのご多幸を祈念いたします。

2005年にスタートした技術経営専攻科(MOT)も早、数えて十歳を迎えます。そのミッションは、「イノベーションを生み出す文化・体制を構築できる企業経営者や従業員らを育成、グローバル化へ対応するインフラの推進などにより日本企業の発展を支え、地域・地方の経済・社会の活性化と繁栄に貢献すること」にあります。

きょうとOBの皆さんは、各企業、組織内での実践に日々がんばっておられると思います。ただ私感ですが、真の理念である「価値の創造と獲得」の点では、ベンチャー起業や新規ビジネス創出の面ではまだまだではないでしょうか。

昨年は安部政権の諸政策、オリンピック招致効果などで市場が活性化し、長引くデフレから脱却する兆しも見え始め、いよいよ2014年は本格的な復活が期待できる明るい年の予想です。

IT、医療、自動車・機械など輸出企業を中心に業績回復、日経平均も18,000円台を目指す勢いです。しかし一方、地方経済の現実は、大手メーカーの工場閉鎖や縮小、海外移転のニュースは尽きず、産学連携によるベンチャー起業や新ビジネス開発は依然低調であり、グローバルイノベーションの遅れ、消費税アップによる反動、円高によるコスト増など「ものづくり」の面での懸念や課題は尽きることはありません。

そんな中、山形大学有機ELの城戸淳二先生の紫綬褒章は大変に明るいニュースでありました。政策面では、アベノミクスの第三の矢である「日本再興戦略」を確実に実行し、日本経済を再生し、産業競争力を強化することを目的とした「産

業競争力強化法」が年末12月4日にやっと成立しました。これにより地方の中小企業の経営支援、ベンチャー起業、ものづくりへの支援強化が加速され、地域の発展、活性化の実現につながります。ことを大いに期待しております。

さて、私事ですが、長年勤めた会社から昨年夏に離れました。三十数年米国内系企業にて、精密濾過技術をベースとした米沢工場の一からの立ち上げ、東京の日本本社での経理、人事制度構築、合併・分社など様々な業務をさせていただきました。ちよつと日本の半導体・FET業界の盛衰の歴史に重なり、また医療用具、生ビール業界など多くの顧客との新製品の開発・製造など、毎日とても刺激的で忙しかつ過ぎた多くの経験でした。古くからの同僚から「伊藤さんの人生、爆走の三十数年でしなね」との言葉通り、思いおこせば「あつ」という間であり、それこそまったくの会社人間、家族旅行も数えるほど、深夜まで仕事、休日には出張・単身赴任の移動日と、趣味だったサッカー界からも足を洗わざるを得ない会社生活でした。

退職後は、しばらく心身の充電で過ごしておりました。六十年に一度という式年遷宮の当たり年の2013年は、久しぶりの家族旅行として、7日間しかない神有月の期間中に出張大社へ参拝し、伊勢神宮では小春日の中、両宮へのお参りと御祈禱をすることができました。60年後は無理ですが20年後の伊勢神宮の遷宮には一度訪れたいと願います。



有機ELイノベーションセンター(ROEL)での基礎講座を受講した際の受講生とセンターのみなさん

また、有機EL研究センターにて、第一線の研究者である笹部久宏先生、夫勇進先生、榎本正則先生が講師を務める本格的な基礎講座を受講しました。延べ三ヶ日間、基礎の講義に加え、研究室の生徒さんの支援の下、有機EL素子(蒸着型・塗布型の二種)を実際に作り発光させ、「有機ELとはどんなものか?」を学びました。大変に有意義で、やはり「ものづくり」の現場は楽しく、何より刺激となりました。

新年からはいよいよ活動再開です。

1月から有機ELイノベーションセンター大場センター長の「地域ビジネスプロモーション事業」の下、共同研究をスタートします。また松田修先生と一緒に面白い仕事ができそうで嬉しさでわくわくしております。

二つ目は、「甘菜会(かんとつかい)」「上杉鷹山公の業績を偲んで、それを引き継ぐ会の名前、甘菜とは中国の故事。甘菜という小さなリンゴのような果物。昔、中国で立派な為政者がこの木で民の声を聴き、正しく取りはからったので、民衆はその為政者だけでなくその木まで慕ったという故事による。」

昨年の夏、NECパーソナル・プロダクト小野寺執行役員を中心に地元企業、山形大学の十数名の有志でスタートした異業種交流会です。「米沢をシリコンバレーのようにしたい」との思いで、論より行動として、「死の谷」を超えてのベンチャー創出、事業化による地域活性化の実現に向けての色々な活動に動き出します。

三つ目は、柴田孝先生の薦めもあり、東京大学ものづくりセンター経営研究センター長藤本隆宏先生が新たに1月より主催する「ものづくりシニア塾」で、中小企業経営支援、ものづくりインストラクターの面で再修業、パワーアップの予定です。今年の私の三つの活動が、MOTの理念、「産業競争力強化法」の公的な施策と運よく相まって、真のベンチャー起業、新規ビジネス開発を実現し、MOT科OBが絡む「産学官連携」、「価値の創造と獲得」の成功例になればと、勝手な夢を描くものです。

この実現は、山形大学教授陣、地域の企業、官公庁の皆様、OBのご協力なくして不可能です。「この場をお借りし、今後とも皆様さんのご協力ご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。是非その際には、皆様のお力をお貸しください。

『私とMOT』 シリーズ編

MOT七期生

高橋 文弘 ・ 高橋 恵美 氏

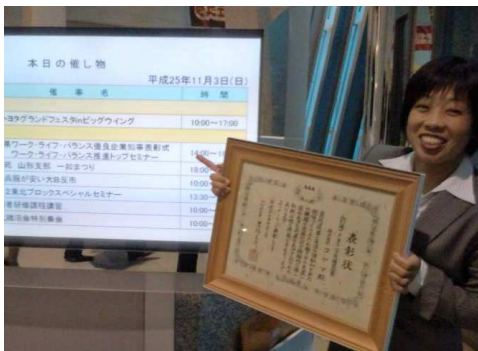


会社のデスクで勤務中の、笑顔の高橋文弘さん

私達夫婦は、あの3.11の地震の中で試験を受け入学しました。仕事と勉強と趣味の両立に苦勞しながらもそんな状況を二人で楽しみ、先生方や会社のみんななどたくさんの方々に助けられて、2013年3月に何とか修了できました。そんな私達が打合せ無しでそれぞれの視点からこれまでを振り返って書きました。二人の比較をお楽しみ下さい。

1. 入学のきっかけ
「高橋文弘」：私の勤めるK社は大手企業のいわゆる下請け企業です。多くの中小企業が持つ悩みと同様にコスト、品質、納期は年々要求が厳しく激化して来るあります。何とかこの状況を抜け出さねばという強い思いはありましたが、その抜け道が皆目検討もつかない状況でした。そんな中、企業向け研修会に参加した妻が、偶然その場で講義をされた松田修先生にいたく感銘を受けて帰ってきました。妻は山大MOTへの入学にやる気満々。私は自分の抱えている仕事と学業の両立に大きな不安を抱えておりましたが、「行動なくして前進はない」という強い信念で夫婦そろっての入学を決意しました。

「高橋恵美」：2010年に村山市主催の経営者向けセミナーを社長と一緒に受講しました。そこで初めて松田先生と柴田先生、志村先生の講義を聞き衝撃を受けました。自社の今後の展望に危機感を抱きながらも何をすべきか分からず、ただ不安だった私にとって、先生方の教えて下さる内容は正に自分が学ばべきことだと思えました。3人の先生方の熱意と経験と知識に一目惚れです。ただ、自分ひとりでは不安だったので、主人を誘い、どうか協力して欲しいと社長や周囲の許可をもらって受験しました。私と一緒に働いてくれている総務の2人が「是非行って来て下さい」と言ってくれたのが何よりも心強かったです。



仕事と生活の調和のとれた職場環境づくりに取り組む企業を山形県が顕彰する、「山形県ワーク・ライフ・バランス優良企業」の本年度表彰を受けた際の高橋恵美さん

2. 在学中の思い出
「高橋文弘」：何と言っても中国大連での海外研修旅行です。MOTへ入る前は、目前の仕事をやり返ることに必死で、他の会社のこと、日本全体のこと、ましてグローバルな視野など持つ余裕はありませんでした。噂に聞くほどで現実の世界情勢は自分に関わりが少なくと考えていたのです。しかし大連のある工場を見学したとき、目を疑わずにはいられませんでした。かつて当社で使用していた製造設備が、その工場の片隅に設置されていたのです。私自身が生産性を上げるための機能を追加した設備だったのでかなりの衝撃でした。海外と日本、そして自分の位置関係が分かり、問題点が明らかになったように感じました。一方では、同級生に本当に恵まれたと感じています。人生の深みを持った方とのふれあいによって広い世界を勉強することができました。

「高橋恵美」：とにかく先生方が熱心で感激しましたし、本当に勉強になる授業ばかりで楽しかったです。人生では大先輩と言えるような知識や経験を積み重ねた方、同じ経営に携わる方、将来有望な若手など同級生にも恵まれて幸運でした。先輩方にもとても良くして頂き助けて貰いました。中国広州への海外演習の時に尖閣問題が浮上し、結局成田まで行って引き返してきたのは残念でしたが良い思い出です。一番勉強になったのは、修士論文作成の過程です。事象の捉え方、問題解決の方法、日本語の使い方、論理的な考え方等々、全て兒玉先生や小野先生に教えて頂きました。

4. 後輩の皆さんへ
「高橋文弘」：MOTに入ったことで、自分の問題だけではなく社会の問題についても自分に繋がっていることとして考えることが出来るようになりました。現在学ばれている学生の方も、広い視野で物事を観察して自分で考えて何をすべきか決断し、行動できるようにしたいと思います。今後の自分の行動に自信をもって対応していけるようになって欲しいです。

「高橋恵美」：MOTで学べることは、社会で生きていく上で活かせることばかりです。せっかく時間とお金を使って学びに来ているのですから積極的に色々な授業をとって、多くの学びを得て下さい。沢山の先生方や先輩方とネットワークを構築して下さい。社会人の方は仕事との両立が大変だと思いますが、たった2年です。2年間だけ仕事も勉強も思い切りやってみるのも良い経験になると思います。

3. 卒業して
「高橋文弘」：同級生たちとはたまに食事に行くこともありません。やはりMOTで出会えたお友達は私の人生に大きく影響を及ぼしたと感じています。大学の先生方から習ったことはもちろん血となり肉となったのですが、同様に悩んでいる友達と、成功をおさめた友達との出会いは何にも代えがたい私の宝になりました。「あの友人も今頃は頑張っているんだろうな」と思うと苦しい場面でも負けてはいけなさと元気づけられます。

「高橋恵美」：自社がこの先勝ち残っていく為にはどうすべきかを自分だけではなく周囲の人達も考えてくれるようになりました。経営理念も作ることが出来ました。仕事をしていると大小様々な問題が起ったり、目標を達成するためにどうすべきか悩んだりしますが、MOTで学んだ捉え方や考え方は何事にも活きています。これから、念願だった本場の自立化を何としても形にしていきたいです。そんな中、先生方に仕事の相談に行かせて貰ったり、同級生や先輩方とLINEで情報交換したり一緒に食事に行ったりとMOTで培ったネットワークには今でも助けて貰ってばかりです。



趣味の登山で、昨年8月に穂高の穂高岳前穂高の仲良しのお二人

グローバル研究会(第14回)

「テーマ」 遺伝子組み換え作物 健康・環境への影響



ご講演される竹下正哲先生
 「講師略歴」 拓殖大学国際学部 准教授
 博士(農学) 北海道大学院修了
 小説家 第15回太宰治賞を受賞

平成二十六年一月二十三日(木)に街中サテライトにおいて、「グローバル研究会」を開催致しました。演題は「遺伝子組み換え作物・食物と環境」と題して、竹下正哲氏にご講演を頂きました。今回もMOTの「とうほくMIRRAコース」の「もっとみらいコンソーシアム」と山形大学工学部国際交流センター、Y-MOTネットワークの共催で開催されました。約50名の大勢の皆様にご参加を頂き、活発な質疑応答で盛況の中で終了いたしました。

「講演主旨」
 ①「遺伝子組み換え」について、多くの方は良く解らない・知らないのが実態と思われれます。この原因は、知らないのではなく、知らされていない・情報が開示されていないことにあります。講師の竹下さんが恐れているのは、この知らされていない事象が意味するものは、突然に原子爆弾が現われときに受けたような衝撃と同じ内容のものではないのだろうか。どこか知らないところでひっそりと進められている遺伝子組み換えの作業が、人類史上、存在しない生態を生み出していることへの危険(危険との認識も出来ないのに)。

安全神話に守られてきた原発も、一瞬のうちに脆くも崩れさった今の現実と、重なるように見えるのです。



熱心に講演に聞き入る参加者の皆さん、熱気溢れる会場の様子

②現状の認識
 今、我々が食べている食物のなかで、アメリカのコーン・大豆によって支えられているものが多い。醤油・ポプコーン・肉・卵・ペビーフード・ペットフード・牛乳・お菓子類・ポテトチップ等々はほとんどが遺伝子組み換えのコーンや大豆で占められていることを知る必要があります。

アイオア州等の広大なコーン畑から収穫・備蓄され、それが様々な形に姿を変えて我々の生活に溶け込んでいます。

③*賛成・反対の参考意見の一部
 *農業(米・大豆等)で農薬の使用量が少なくなる。
 *アフリカの飢餓を救える、ビタミンAを含んだゴールデンライスの開発により失明者を救える。
 ・加速したら止めるブレーキが無く制御が出来ない。消費者にとって選択の自由が無くなっている。
 ・生産者にはコストメリットがあるが、消費者にとっては人体や環境面への影響がまだ不透明。
 ・自然界では起こり得ない異変が起きる、抵抗性のある菌や生物(スパー害虫等)が発生している。

「聴講者所感」
 短時間の講演での勉強会でありましたが、遺伝子組み換え食物が与えるであろう人体・環境への影響の大きさを予測できる内容であり、私達に重要な警鐘を促す内容でありましたことを感謝致します。

遺伝子組み換え植物とは？(下記の5項目の中で、遺伝子組み換えの食物を選んでください)

- ①甘いトマトと大きいトマトを組み合わせたもの
- ②カボチャの茎にナスを接いだもの
- ③サソリの毒を持つキャベツ
- ④ポマト・・・枝にトマト、根にポテトのできるもの
- ⑤鉄と融合させたカチカチに硬い竹

(答)①品種改良 ②接ぎ木 ③遺伝子組み換え ④細胞の結合 ⑤存在しないもの

ラジオ深夜便 誕生日の花と短歌 365日

短歌とエッセー 鳥海昭子(編集:発行NHKサービスセンター)

1月25日(土)「本誌の発行日」の花は、

「富貴菊(フウキギク) シネリリア」キク科です。

花言葉 : 快活 常に輝かしく

短歌 : こころよく 陽は回りきて サイネリア 精いっぱい 花盛り上げる

一夜明けて、朝の出勤途中の車の中で、NHKの放送を毎朝聞いております。約30分間、ラジオ体操やビジネス展望やFAX・メールの老若男女・職業を問わない投稿などを聞いておりますと、ラジオファンがこんなに沢山いるの?と思うほどの賑やかさです。朝の一声が今日一日のスタートに、元氣と生きる力を与えてくれるようです! それでは、今朝も早起きをして出発です。

そう、あなたも一緒に!

(A編集委員)



「MOT広場」 平成26年度10月入学の皆さんをご紹介します

ものづくり技術経営学専攻(MOT)は、「価値創成コース」と「とうほくMITRAI(みらい)コース」(留学生コース)の2コース制となりました。10月入学生は「価値創成コース」が2名、「とうほくMITRAIコース」が6名、合計8名の方が入学されました。この度の南米ボリビア多民族国からの4名の留学生の受け入れは初めてになりますが、このうちの3名(マイタ・ダニエル・ロベルトさん、リナ・ウアンカ・アイディさん、ポコレイ・ルイス・フェルナンドさん)は2012年度に文部科学省に採択された人材育成プログラム(国費留学生特別プログラム)に基づくものであり、2017年秋まで合計で20名の受け入れが予定されております。次世代エネルギーの主役となるリチウムについては、ボリビア南西部のウユニ塩湖に世界のリチウム資源の半分が眠ると言われており、資源開発と組織マネジメントができる人材の育成が目的です。もう1名(池田・アレックス・潤平さん)はJICAが実施する日系社会のリーダー育成事業(外務省)での入学となります。2名の中国からの留学生は羅小敏さん、孫芸慈さんです。価値創成コースの2名は高屋聡さん、馬場誠さんです。皆さんの頑張りに期待致します！



価値創成コース

(社会人)
高屋 聡さん

(社会人)
馬場 誠さん

とうほくMITRAIコース

国籍:ボリ ビア、マイ タ・ダニエ ル・ロベル トさん	国籍:ボリ ビア、池田・ アレックス・ 潤平さん	国籍:中国、 羅小敏(ラ ・ショウビ ン)さん	国籍:中国、 孫芸慈(ソ ン・ゲイジ) さん	国籍:ボリ ビア、リナ・ ウアンカ・ アイディさ ん	国籍:ボリビ ア、ポコレイ ルイス・フェ ルナンドさん
---	-----------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	--	--------------------------------------



「コーヒースタンプで、こんにちは！」



新年あけましておめでとうございます。
日常が国際交流なY-MOT！
新年を迎えた1月2日は、中国、ボリビア、ベトナムの留学生とMOT専攻の留学生OBで、米沢の里山南原でお正月を楽しんで頂きました。
来年もぜひ、みなさまの笑顔をお待ちしています。
SNSで繋がっていても、顔を合わせる事の大切さ有り難さを感じます。
Y-MOTの絆で、米沢にも世界中にもたくさんの花が開く2014年でありますように。
みなさまのご活躍をお祈り申し上げます。
コーヒースタンプ □ 担当 黒田三佳でした。

《編集後記》

任天堂が苦戦している。今年度売上予想より3.3千億円マイナスの5.9千億円で、当期利益は黒字予想から350億円の赤字に転落する。据え置きゲーム機と専用Gソフト双方の販売不振が原因の他にスマホやタブレットへの移行が背景にある。業界60年代の映画からTV、また80年代にカラオケ通信に変化したと同様に、技術(点)から流通市場(面)展開で、商品進化過程での試練とみる。守本東北経産局長が当地某講演会の中で、「製造業の成長には知財・サービスを生み出す力を高めることが重要」との警鐘があった。例えば関東地区生産シェア36%に対する知財シェア64%に比較して、当地区は生産シェア5%に対して知財シェア0.6%と、量的劣勢だけでなく質の改善が特に急務となる。今まさにモノから学びの競争へと発想転換を迫られている。伊藤雄三さんの半導体業界での激闘や高橋夫妻が語る少年達のような真摯な輝き。これらの経験とMOT仕込みの知財学習を強みに今後の中心活動へ展開して欲しいと願うものである。転換期克服の最大モデルツールと考える故に。加えて入学者及びここに学ぶMOT諸君へのエールとする。

＜編集委員一同＞

《MOT事務局便り》

MOT事務局より、大学の動きやMOT専攻に関わる情報をお知らせ致します。

- 平成26年3月修了予定者修士学位論文公聴会
- 平成26年2月15日12時45分～14時55分(於・4号館中示範A)
- 平成26年9月修了予定者修士学位論文中間発表会
- 10時30分～11時55分
- (同日・向場所にて)
- 尚、学位記授与式は、3月21日(金)に行われます。
- 2月15日18時30分～M1主催による追出しコンパが「リーガル」にて開催されます。是非参加下さい。

MOT事務局